

日本の地場産業

神戸大学→甲南大学→ 神戸大学

加護野忠男

ビジネス・システムという視点

- 産地を企業間協働という視点から見る
- 協働の目的:顧客価値を高めてそこから得られる利益を皆で分配する
- 協働の課題;人材育成;経営支援と監視
- 金融;金融機関の役割と取引信用の役割

土着産業

- 地域社会と深く結びついた産業の集積
- 地域社会に組み込まれた産業の集積
- 産業と結びついた地域の社会文化(行動規範・価値観)
- 産業と地域の同時形成

ビジネスシステム

- 顧客に価値を届ける仕組み:協働と競争
- 固有の難問を克服する仕組み:固有隘路の解消
- 人材育成の仕組み、技術の伝承の仕組み、イノベーションの仕組み、利益分配の仕組み
- 取引を制御するルール
- 産業や地域による違い

土着産業のビジネス・システム

- 企業家・経営者の育成の仕組み
- 技術の伝承と革新の仕組み
- 企業の新陳代謝の仕組み
- 適度な競争維持の仕組み
- 企業間協働の仕組み
- 強者の力を制御する仕組み+弱者救済
- 地域の文化や伝統との結びつき
- 地域のソフト資産としての書かれざるルール

京都の企業家育成

- 室町システム『むろまち』
- 村田昭『不思議な石ころ』
- 麦踏・鍛錬
- すみわけ・価格競争の排除
- 保守的風土の革新性：ベンチャーを生み出す条件

東大阪の新陳代謝システム

- 金型産業の難しさ: 大きな不安定性
- 不況と企業誕生: 細胞分裂システム
- 厳しい競争を通じた強靱な企業の育成: 船場とも共通

灘のシステム

- 杜氏による技術の伝承
- パトロンとしての蔵：経営者としての杜氏
- なぜコア技術のアウトソーシングが起こったのか
 - 不安定性
 - 切磋琢磨
 - 経営者の発掘 職人のリクルートと育成
- 灘は口入屋を使わなかった

龍野の仕組み

- 小さな街に三つの全国規模産業
- 醤油：淡口醤油
- そうめん：揖保の糸
- 皮革
- とともに高品質：それを支えるもの
 - 小さな社会の監視システム

祇園

- なぜ祇園は生き残ったのか
- 顧客に合わせた即興芸
- 学校での基礎教育
- 徹底したアウトソーシング
- 小さな集団での鍛錬

神戸のケーキはなぜおいしいのか 神戸のソフトパワー

- 顧客:阪神間文化
- 食材:増田製粉
- 職人:職人の不文律

宮大工

- 長寿の秘密:竹中工務店・金剛組
- 職人が職人を育てることの固有の隘路の克服
- 2重の競争
- 組内組での技術伝承

日本の土着産業システム（特徴）

- 人材育成のシステム：技能者と経営者
- 書かれざるルール：地域の文化資産、ソフトパワー
- 取引ネットワークによる企業育成：投資家よりも顧客
- 協働の一形態としての競争
- 建設的な競争の維持（価格での競争に持ち込まない）
- 産地の価値を高める工夫
- 規範を遵守させる工夫：競争と節度：近江商人の知恵、中国の山東商人の慣習

人材育成のシステム

技能者

- 擬似家族集団における技能者の育成
- 集団の効用
- 生活集団と雑用の効用
- 学校の効用:BJT
- 学校の効果を高めるために:基礎訓練と修学指導

経営者

- 支援よりも試練
- 顧客による育成
- 褒章としての長期取引
- 事業リスクへの対応の手段:兼業

土着産業の取引システムと 理論構築

- 経済学における取引: 価値の奪い合い: 取引ガバナンスの必要性
- 土着産業の取引: 当事者の共通利益の創造と分配; そのためのルール形成とルール遵守の担保
- 取引コスト論を超えて
- 取引コストとは取引ガバナンスコスト
- 利益とは共通利益: 共通リスクの削減; 最終顧客価値の増大(QD); シェアリングモデル
- 利益分配ルールとしての取引ルール

何故土着産業はなぜ衰退した

- 画一的な制度づくり
- 機能分割的な制度づくり
- 個別の事情を考慮しない法律の施行
- 強者の横暴と弱者のもたれあい
- 伝統の軽視
- ソフト資産の劣化
- 人材プールの枯渇
- 土着の故の脆弱性